

19 益救神社仁王像(ヤクジンジャニオウゾウ)

指定 平成元年4月1日 町指定有形一歴史資料
所在地 鹿児島県屋久島町宮之浦
管理者 宗教法人益救神社



この石像は凝灰岩でできており、左側に口を開いた阿形、右側に口を閉じた吽形の「金剛力士」で対をなす、上半身裸体のたくましい仁王像です。

石像の背面には、「天保二年 辛卯二月吉日 奉寄進 宮之浦住 近藤濱一 右嫡子市助」と刻銘があり、文政期から天保期に流行した疫病の退散と島民の安全を祈って、天保二年(1831)に益救神社に寄進されたものと考えられます。仁王像は本来寺門の左右に立ち仏法や伽藍を守る守護神ですが益救神社に寄進されていることは、屋久島で神仏混合の考え方がゆきわたっていたことを示しています。かつては、島内の各寺社に仁王像がありましたが、そのほとんどが明治初期の廃仏毀釈(神仏分離の考えよる、寺院や仏具を破壊する運動)の難により損傷を受けました。わずかに牛床詣所の仁王像とこの仁王像が原形を保っています。

若干の損傷があるものの、この仁王像は年代、寄進者名が明らかで、当時の屋久島を知る貴重な文化財となっています。